

## (2) 合併パターン

### ① 都市・町村融合型（大館市・田代町・比内町）

市町村	人口	面積（密度） km <sup>2</sup> （人）	産業構造（就業者人口）						
			1次		2次		3次		
大館市	68,042	401.54	169.5	3,174	9.6%	9,888	29.7%	20,152	60.7%
田代町	8,437	306.77	27.5	715	16.3%	1,766	40.4%	1,889	43.2%
比内町	12,706	205.39	61.9	1,119	17.7%	2,527	39.9%	2,879	42.3%
計	89,185	913.70	97.6	5,008	11.4%	14,161	32.3%	24,720	56.3%

市町村	歳出 （百万円）	経常収支 比率	公債費 負担比率	職員数	議員数	主な地域指定		
						過疎	豪雪	山村
大館市	26,996	67.3%	13.2%	505	28			○
田代町	5,483	79.6%	14.7%	112	18	○	○	○
比内町	5,744	82.1%	12.8%	124	20	○	○	○
計	38,223			741	66			

- 注1 「人口」は、平成10年3月31日の住民基本台帳の人口である。ただし、「産業構造」の就業者人口は平成7年の国勢調査によるものである。
- 2 「歳出」、「経常収支比率」及び「公債費負担比率」は平成9年度決算（普通会計）に基づくものである。
- 3 「職員数」及び「議員数」は、平成10年4月1日現在のものである。
- 4 「主な地域指定」欄における「過疎」は過疎地域活性化特別措置法、「豪雪」は豪雪地帯対策特別措置法（特別豪雪地帯）、「山村」は山村振興法の適用の有無を意味する。
- 5 1から4までは、他の合併効果等予測地域においても同じである。

#### 1 地域の概況

3市町村合わせた面積は約900km<sup>2</sup>と広く、人口は約8万9千人となっている。中央部を米代川が貫流し、これと支流の長木川、下内川、犀川、早口川、岩瀬川等の流域に集落を成している。また、圏域の8割近くは林野で、3市町ともに振興山村地域に指定されており、特に北部一帯は良質な秋田杉・特用林産物の主要産地となっている。奥羽山脈、出羽丘陵及び北部高山地帯に囲まれた積雪寒冷地帯であり、田代町及び比内町は特別豪雪地帯にも指定されている。この2町は、人口の減少や高齢化も著しく、過疎地域にもなっている。

鉄道は、JR奥羽線が田代町（1駅）と大館市（4駅）を花輪線が大館市（3駅）と比内町（1駅）を走っている。道路は、国道7号線、285号線、103号線等が通り、3市町を結んでいる。また、平成元年から本線工事に着手している大館西道路は、大館南IC・国道7号間が平成10年12月に供用開始している。

#### 2 住民等の意識

##### (1) 合併の必要性

###### 【一般住民】

- ・大館市及び田代町は合併不要派が検討派を若干上回っており、特に、比内町は不要派が55%で検討派の30%を大幅に上回っている。

###### 【行政関係者等】

- ・3市町いずれも検討派が80%を超えている。「合併の必要がある」だけでも、大館市が47%、比内町が42%と高く、田代町においても31%となっている。

##### (2) 市町村間の親近度

###### 【一般住民】

- ・大館市と田代町、大館市と比内町は相互に50%を超えている。田代町と比内町は相互に40%を

超えている。

**【行政関係者等】**

- ・3市町は、相互に80%を超えている。

3 行政の連携

**【事務の共同処理】**

- ・当該3市町のみで、広域市町村圏組合を構成し、消防、し尿・ゴミ処理、斎場等の事務を共同処理している。
- ・介護保険事務（介護認定審査会事務）についても、広域市町村圏組合で対応することとしている。

**【行政計画等】**

- ・ゴミ処理広域化計画も、当該3市町のみブロックとなっている。
- ・2次医療圏、老人保健福祉圏等は、鹿角市及び小坂町を含めた同一圏に属し、また、3市町とも「米代川流域地方拠点都市地域」に該当している。

4 生活圏

- ・全般的に田代町及び比内町の大館市に対する依存度が高い。

5 行政機関等の管轄等

**【主な行政機関】**

- ・北秋田地方部に、当該3市町の区域に係る事務を分掌する組織として「大館地区総合事務所」が置かれている。
- ・「大館保健所」は、当該3市町と鹿角市及び小坂町を管轄しているが、鹿角市及び小坂町に係る事務を分掌するものとして「鹿角支所」が置かれており、3市町は本所扱いとなっている。
- ・「大館警察署」は、当該3市町のみを管轄している。
- ・県税事務所、福祉事務所及び農林事務所は、大館市及び北秋田郡町村をひとつとして管轄している。
- ・「秋田法務局大館支局」は北鹿地域及び北秋田郡全体を管轄しているが、当該3市町のみ本支局扱いとなっている（他の市町村は出張所扱いである。）。また、「大館職業安定所」も大館市及び北秋田郡を管轄しているが、当該3市町のみ本所扱いとなっている。
- ・「大館周辺広域消防本部」は、当該3市町のみを管轄している。

**【主な公共的団体】**

- ・農協は、「あきた北農協」が当該3市町のみを管轄している。
- ・森林組合は、「大館比内森林組合」が大館市及び比内町を、「田代森林組合」が田代町のみを管轄している。
- ・青年会議所は、「大館青年会議所」が当該3市町のみを管轄している。
- ・「大館商工会議所」は花矢地区以外の大館市を、「花矢商工会」は同市の旧花矢町地区のみを管轄している。田代町及び比内町は、それぞれ町単位に商工会が設置されている。
- ・社会福祉協議会は、市町単位に置かれている。

6 歴史的経緯

- ・昭和30年、大館市の旧上川沿村の一部の比内町への分離問題が発生している（不成立）。
- ・昭和42年、花矢町が大館市に編入されている。

7 その他

- ・大館市及び比内町は、それぞれ病院を運営している（それぞれ505床、150床）。
- ・平成9年、日本青年会議所は当該3市町の「大館市」構想を提言している。

② 都市移行型（五城目町・八郎瀧町・井川町・飯田川町・昭和町）

市町村	人口	面積（密度） km <sup>2</sup> （人）		産業構造（就業者人口）					
				1次		2次		3次	
五城目町	13,346	214.94	62.1	809	12.1%	2,745	41.1%	3,118	46.6%
八郎瀧町	7,756	17.03	455.4	369	9.6%	1,412	36.8%	2,054	53.5%
井川町	8,182	47.95	128.9	501	15.6%	1,381	43.1%	1,322	41.2%
飯田川町	5,155	15.80	326.3	268	10.6%	1,029	40.8%	1,224	48.6%
昭和町	9,126	40.65	224.5	577	12.3%	1,787	38.2%	2,318	49.5%
計	41,565	336.37	123.6	2,524	12.1%	8,354	39.9%	10,034	48.0%

  

市町村	歳出 （百万円）	経常収支 比率	公債費 負担比率	職員数	議員数	主な地域指定		
						過疎	豪雪	山村
五城目町	6,239	84.3%	17.8%	204	22	○		○
八郎瀧町	4,014	79.6%	9.8%	70	18			○
井川町	3,948	78.1%	21.0%	85	16			
飯田川町	2,829	79.3%	10.1%	66	16			
昭和町	3,992	83.7%	15.4%	103	20			
計	21,022			528	92			

1 地域の概況

八郎湖の東側に位置し、5町合わせても面積は336km<sup>2</sup>と比較的小さいが（その6割以上を五城目町が占める。）、人口は4万人を超える。東部は出羽丘陵が連なり、山林も多いが、八郎湖東岸は平坦地が続いている。

鉄道は、JR奥羽線が各町を南北に貫き、五城目町を除く4町に駅がひとつずつ設置されている。これと国道7号線が併走しているほか、285号線が井川町及び五城目町を通っている。東北横断道が既に昭和町まで北上し、同町に昭和男鹿半島ICが設置されている。

2 住民等の意識

(1) 合併の必要性

【一般住民】

・井川町が、合併不要派が検討派を若干上回っているが、他の4町は、合併検討派が不要派を大幅に上回っている。

【行政関係者等】

・5町とも、合併検討派が不要派を大幅に上回っており、五城目町及び井川町においては、合併検討派が100%となっている。

(2) 市町村間の親近度

【一般住民】

・昭和町の五城目町・八郎瀧町に対する親近度及び飯田川町の五城目町・八郎瀧町に対する親近度は、いずれも30%未満であるが、それ以外の相互関係はすべて40%を超え、中でも八郎瀧町と五城目町は相互に50%を超えている。

【行政関係者等】

・飯田川町と昭和町の2町は相互に60%を超え、八郎瀧町、五城目町、飯田川町及び井川町の4町も相互に50%を超えている。

### 3 行政の連携

#### 【事務の共同処理】

- ・この地域は、広域市町村圏組合が設置されておらず、各事務毎に一部事務組合が設置されているが、秋田市及び男鹿市と当該5町を含む周辺町村で、広域市町村圏計画の策定等を目的とした地方自治法に基づく協議会を設置している。
- ・当該5町のうち、五城目町を除く4町で消防事務組合を、五城目町及び八郎潟町を除く3町でゴミ処理の組合を、八郎潟町及び井川町でし尿処理の組合を、昭和町及び飯田川町で中学校運営の組合をそれぞれ設置している。
- ・八郎潟町は、若美町及び大潟村とゴミ処理組合を設置している。
- ・介護保険事務については、当該5町を含む南秋田郡で介護認定審査会を共同設置している。

#### 【行政計画等】

- ・ゴミ処理広域化計画も、当該5町を含む南秋田郡町村と男鹿市のブロックとなっている。
- ・2次医療圏、老人保健福祉圏等は、秋田市、男鹿市、当該5町を含む南秋田郡及び河辺郡をひとつとしたものになっている。
- ・当該5町のうちの昭和町及び飯田川町と秋田市及び天王町の4市町の間には都市計画区域がある。

### 4 生活圏

- ・全体としては秋田市に対する依存度が高いが、買い物や通院の面では5町の相互依存の関係も認められる。

### 5 行政機関等の管轄等

#### 【主な行政機関】

- ・県の出先機関のほとんどが、秋田市、男鹿市、南秋田郡及び河辺郡をひとつとして管轄しているが、警察署は、「五城目警察署」が当該5町と大潟村を管轄している。
- ・「秋田法務局五城目出張所」は当該5町を管轄している。
- ・消防本部は、「湖東地区消防本部」が当該5町のうち五城目町以外の4町村を管轄し、五城目町は単独設置となっている。

#### 【主な公共的団体】

- ・農協は、「あきた湖東農協」が当該5町のうち八郎潟町以外の4町を、「八郎潟町農協」は八郎潟町のみを管轄している。
- ・森林組合は、「五城目町森林組合」が当該5町のうち五城目町及び八郎潟町を、「湖東森林組合」がそれ以外の3町を管轄している。
- ・青年会議所は、「あきた湖東青年会議所」が当該5町のみを管轄している。
- ・商工会及び社会福祉協議会は、町村毎に設置されている。

### 6 歴史的経緯

- ・昭和31年、八郎潟町の旧面潟村の一部が五城目町に編入されている。また、五城目町の旧大川村の一部の八郎潟町への分離問題が発生している（不成立）。
- ・昭和32年、飯田川町は、昭和32年新市町村建設促進法に基づき井川村との合併を勧告されているが、受諾していない。

- ・昭和17年、豊川村、大久保町及び飯田川町が合併し、昭和町が誕生したが、昭和25年には3町村が分離し、旧大久保町だけが昭和町の名を残した。同町は、昭和30年、金足村の一部を編入し、更に昭和31年には再び豊川村と合併している。なお、昭和31年には、秋田市の旧金足村の一部の昭和町への分離問題も発生している（不成立）。

#### 7 その他

- ・行政関係者や青年会議所によって、当該5町合併の「湖東市構想」が提唱されたことがある。
- ・平成9年、日本青年会議所は、秋田市、男鹿市、南秋田郡及び河辺郡を含む「秋田市」構想を提言している。

③ 山村等地域連携型（合川町・森吉町・上小阿仁村・阿仁町）

市町村	人口	面積（密度） km <sup>2</sup> （人）		産業構造（就業者人口）					
				1次		2次		3次	
合川町	8,469	112.80	75.1	940	22.7%	1,589	38.3%	1,816	39.0%
森吉町	8,253	341.88	24.1	630	15.2%	1,741	42.0%	1,772	42.8%
上小阿仁村	3,651	256.82	14.2	371	21.6%	664	38.6%	685	39.8%
阿仁町	4,810	371.92	12.9	489	21.1%	897	38.6%	930	40.1%
計	25,183	1,083.42	23.2	2,430	19.7%	4,891	39.7%	5,003	40.6%

  

市町村	歳出 （百万円）	経常収支 比率	公債費 負担比率	職員数	議員数	主な地域指定		
						過疎	豪雪	山村
合川町	5,590	84.1%	16.6%	109	18	○		○
森吉町	6,705	81.9%	16.8%	114	18	○	○	○
上小阿仁村	3,583	79.6%	14.0%	96	14	○	○	○
阿仁町	4,821	79.6%	16.0%	117	16	○	○	○
計	20,699			436	66			

1 地域の概況

4町村合わせた面積は約1,000km<sup>2</sup>と広大であるが、人口は約2万5千人と少ない。米代川の支流沿いに平地が開けているが、全体としては山地が多く、4町とも振興山村地域に指定されている。また、いずれも人口減少や高齢化が顕著で、過疎地域に指定されているほか、積雪寒冷地帯であり、合川町を除く3町が特別豪雪地帯に指定されている。南部に、森吉山、太平山の二つの県立自然公園を抱えるなど、観光資源に恵まれている。

鉄道は、鷹巣町と角館町を結ぶ秋田内陸線が、南北に合川町（3駅）、森吉町（4駅）及び阿仁町（9駅）を縦貫している。道路は、秋田市への短絡道としての国道285号線が森吉町、合川町及び上小阿仁村を、鷹巣町と県南部を結ぶ国道105号線が森吉町及び阿仁町を通っている。また、合川町及び森吉町と鷹巣町の境付近に大館能代空港（所在地は鷹巣町）が平成10年7月に開港しており、空港へのアクセス道路もほぼ整備されている。

2 住民等の意識

(1) 合併の必要性

【一般住民】

・森吉町を除く3町村は、合併検討派が50%を超え、不要派を大幅に上回っている。森吉町も検討派が42%で、不要派の36%を上回っている。

【行政関係者等】

・合併検討派が森吉町で80%を超え、阿仁町、合川町及び上小阿仁村においても50%を超えている。

(2) 市町村間の親近度

【一般住民】

・4町村は相互に50%を超えている。なお、鷹巣町と合川町は相互に50%を超えているが、鷹巣町と他の3町相互は40%程度に止まっている。

【行政関係者等】

・4町村は相互に70%を超えている。なお、鷹巣町の4町村に対する親近度は50%を超えている

が、森吉町の鷹巣町に対する親近度は30%台に止まっている。

### 3 行政の連携

#### 【事務の共同処理】

- ・当該4町村と鷹巣町で広域市町村圏組合を構成し、消防、ゴミ処理、老人福祉施設やスポーツ施設の管理運営、工業団地導入等の幅広い事務を共同処理している。また、同じ構成で、病院事業を行う組合や高校の運営を行う組合を設けている。
- ・森吉町、合川町及び上小阿仁村の3町村のみで、火葬場及び粗大ゴミ最終処分場を運営する組合を設けている。
- ・当該4町村及び鷹巣町に山本郡の二ツ井町及び藤里町が加わり、し尿処理の組合を設けている。
- ・当該4町村のみにより介護認定審査会を共同設置している（鷹巣町は単独対応）。

#### 【行政計画等】

- ・ゴミ処理広域化計画は、当該4町村と鷹巣町によるブロックとなっている。
- ・2次医療圏、老人保健福祉圏等は、当該4町村と鷹巣町が同一圏に属している。
- ・森吉町及び阿仁町は「米代川流域地方拠点都市地域」に該当しているが、阿仁町及び上小阿仁村は当該地域から外れている。

### 4 生活圏

- ・買い物においては、当該4町村の大館市に対する依存度が高いが、通学や通院では、4町村間の依存関係や4町村の鷹巣町に対する依存関係も認められる。特に通院で、鷹巣町及び森吉町に対する他の3町村の依存度が高い。

### 5 行政機関等の管轄等

#### 【主な行政機関】

- ・県の出先機関のほとんどが、当該4町村と鷹巣町又はこれを越える地域を単位として管轄しているが、「森吉警察署」は当該4町村のみを管轄している。
- ・「秋田法務局大館支局森吉出張所」は森吉町、阿仁町及び上小阿仁村の3町を管轄しており、合川町は鷹巣町とともに「鷹巣出張所」の管轄となっている。
- ・「鷹巣阿仁広域消防本部」は、当該4町村と鷹巣町を管轄している。

#### 【主な公共的団体】

- ・農協は、「あきた北央農協」が4町村のみを管轄している（鷹巣町は単独農協）。
- ・森林組合は、「北秋田森林組合」が合川町及び上小阿仁村と鷹巣町を、「阿仁森吉森林組合」が森吉町及び阿仁町を管轄している。
- ・青年会議所は、「阿仁鷹巣青年会議所」が当該4町村と鷹巣町を管轄している。
- ・商工会及び社会福祉協議会は、町村単位に置かれている。

### 6 歴史的経緯

- ・昭和32年鷹巣町の旧七日市村の一部の森吉町への分離問題が発生している（不成立）。
- ・上小阿仁村は、昭和32年に新市町村建設促進法に基づき森吉町及び阿仁町との合併を勧告されているが、受諾しておらず、同村は明治22年の町村制施行以来合併を経験していない。



## 7 その他

- ・阿仁町が病院事業を経営しているほか（75床）、同町及び鷹巣町を含む鷹巣阿仁の5町村による組合で公立米内沢総合病院を経営している（277床）。
- ・平成8年、各町議会OB等で構成する「鷹巣阿仁広域合併を考える会」による鷹巣町を含めた5町村の合併を探る動きが見られた。
- ・平成8年、「鷹巣阿仁青年会議所」が鷹巣町を含めた5町村の住民を対象に合併に関するアンケート調査を実施している。
- ・平成9年、日本青年会議所は鷹巣町と当該5町を含めた「鷹巣阿仁市」を提言している。

④ 町村振興型（仁賀保町・金浦町・象潟町）

市町村	人口	面積（密度） km <sup>2</sup> （人）		産業構造（就業者人口）					
				1次		2次		3次	
仁賀保町	12,260	98.51	124.5	688	10.4%	3,573	54.0%	2,346	35.5%
金浦町	5,228	18.08	289.2	395	13.8%	1,354	47.2%	1,115	38.9%
象潟町	13,688	124.02	110.4	816	11.1%	3,692	50.3%	2,823	38.5%
計	31,176	240.61	129.6	1,899	11.3%	8,619	51.3%	6,284	37.4%

  

市町村	歳出 （百万円）	経常収支 比率	公債費 負担比率	職員数	議員数	主な地域指定		
						過疎	豪雪	山村
仁賀保町	6,419	74.6%	8.6%	119	10			
金浦町	3,371	71.6%	8.5%	67	14			
象潟町	7,973	75.8%	15.8%	136	20			○
計	17,763			322	52			

1 地域の概況

この地域は、面積が240km<sup>2</sup>とコンパクトで、人口は約3万1千人となっている。秋田県の南西端に位置し、南（象潟町）は山形県と接している。日本海沿岸部は暖流による温暖な気候と肥沃な土地に恵まれ、漁業と稲作を中心とした農業が行われている。また、東部は鳥海山及びその丘陵である鳥海高原を成している。この地域は、従来、農業等を基幹産業としていたが、TDKを中心とした電子機器産業がいわば地場産業として定着し、地域経済に大きな影響を持つようになっており、県内には珍しく2次産業の比率（就業者人口）が50%を超えている。

鉄道は、JR羽越本線が仁賀保町（1駅）、金浦町（1駅）及び象潟町（3駅）の海岸部を南北に縦走し、また、国道7号線が海岸部を羽越本線と併走している。

2 住民等の意識

(1) 合併の必要性

【一般住民】

・仁賀保町・金浦町は、合併検討派がそれぞれ67%、75%と高く、象潟町も合併検討派が不要派を上回っている。

【行政関係者等】

・象潟町は合併検討派が100%であり、仁賀保町・金浦町も80%を超えている。

(2) 市町村間の親近度

【一般住民】

・仁賀保町及び金浦町のそれぞれ他の2町に対する親近度は80%を超え、象潟町の他の2町に対する親近度も60%を超えている。

【行政関係者等】

・当該3町は、相互に70%を超えており、特に金浦町の他の2町に対する親近度は100%となっている。

3 行政の連携

【事務の共同処理】

・当該3町を含む由利郡町村と本荘市の11市町村で広域市町村圏組合を構成し、し尿処理、ゴミ

処理、老人福祉施設の運営のほか、情報処理等の事務も共同処理している。

- ・当該3町のみで、消防事務の組合及び塵芥処理・公共下水道事務の組合を設置している。特に、県内で公共下水道事務を共同処理しているのは当該3町のみであり、終末処理場が金浦町に設置され、3町が下水管渠で結ばれている。
- ・介護保険事務（認定審査会事務）については、仁賀保町が広域市町村圏組合に委託し、金浦町及び象潟町は同組合で共同処理することになっており、実質的には3町とも同組合を利用することになる。

#### 【行政計画等】

- ・ゴミ処理広域化計画は、当該3町を含む由利郡町村と本荘市11市町村のブロックとなっている。
- ・2次医療圏、老人保健福祉圏域等も、当該3町を含む由利郡町村と本荘市をひとつとした圏域となっている。

#### 4 生活圏

- ・3町とも、一般的に本荘市に対する依存度が高いが、通学・通院・買物では、3町間の依存関係も認められる。

#### 5 行政機関等の管轄等

##### 【主な行政機関等】

- ・県の出先機関のほとんどが、当該3町を含む由利郡町村と本荘市をひとつとして管轄しているが、「象潟警察署」は、3町のみを管轄している。
- ・「秋田法務局本荘支局象潟出張所」は、当該3町のみを管轄している。
- ・「仁賀保地区消防本部」は、当該3町のみを管轄している。

##### 【主な公共的団体等】

- ・農協は、「秋田しんせい農協」が当該3町を含む由利郡町村と本荘市を管轄している。
- ・森林組合は、「本荘由利森林組合」が当該3町を含む由利郡町村と本荘市を管轄している。
- ・漁協は、「秋田県南部漁協」が当該3町と本荘市、岩城町及び西目町の漁業者を組合員としている。
- ・青年会議所は、「由利本荘青年会議所」が当該3町を含む由利郡町村と本荘市を管轄している。
- ・商工会及び社会福祉協議会は町単位に置かれている。

#### 6 歴史的経緯

- ・金浦町は、昭和32年、新市町村建設促進法に基づき象潟町との合併を勧告されているが、これを受諾せず、同町は明治22年の町村制施行以来合併を経験していない。
- ・昭和32年、仁賀保町の旧小出村の一部の金浦町への分離問題が発生している（不成立）。

#### 7 その他

- ・3町とも、水道事業のほかガス事業も経営している。
- ・平成11年に、合併も視野に入れた3町の担当職員レベルの研究会が設置されている。
- ・これまで、3町等の議会議員による合併に関する勉強会が断続的に開催されている。

- ・平成10年に、3町の議会に商工会から広域行政の推進を求める陳情がなされ、いずれにおいても採択されている。
- ・工業関係者により、3町に西目町を加えた「由利沿岸4町合併構想」が提唱されたことがある。
- ・平成9年に、象潟町が町民に対し合併に関するアンケートを実施している。
- ・平成9年に、日本青年会議所が本荘市及び由利郡の町を含めた「由利本荘市」構想を提言している。

⑤ 広域圏発展型（横手市・増田町・平鹿町・雄物川町・大森町・十文字町・山内村・大雄村・東成瀬村）

市町村	人口	面積（密度） km <sup>2</sup> （人）		産業構造（就業者人口）					
				1次		2次		3次	
横手市	41,109	110.57	371.8	2,326	11.3%	5,224	25.3%	13,060	63.3%
増田町	9,504	74.21	128.1	1,060	21.5%	1,839	37.3%	2,023	41.0%
平鹿町	15,717	69.37	248.0	2,653	32.0%	2,452	29.6%	3,187	38.4%
雄物川町	12,103	73.60	164.4	1,834	29.6%	2,118	34.2%	2,243	36.2%
大森町	8,434	102.23	82.5	912	21.6%	1,564	37.1%	1,742	41.3%
十文字町	14,979	37.80	396.3	1,611	20.9%	2,615	34.0%	3,476	45.1%
山内村	4,946	205.68	24.0	701	26.9%	954	36.6%	949	36.4%
大雄村	6,194	26.13	237.0	879	27.0%	1,129	34.7%	1,241	38.2%
東成瀬村	3,498	203.57	17.2	365	20.5%	851	47.9%	560	31.5%
計	116,484	897.16	129.8	12,341	20.7%	18,746	31.5%	28,481	47.8%

  

市町村	歳出 （百万円）	経常収支 比率	公債費 負担比率	職員数	議員数	主な地域指定		
						過疎	豪雪	山村
横手市	16,732	84.8%	15.6%	306	26			
増田町	4,418	85.8%	22.0%	178	20	○	○	
平鹿町	7,266	81.7%	16.0%	163	22	○		
雄物川町	5,134	85.1%	16.7%	171	22	○	○	
大森町	7,258	79.9%	13.8%	157	18	○	○	○
十文字町	7,111	87.4%	12.5%	216	22			
山内村	4,482	84.8%	16.1%	134	16	○	○	○
大雄村	3,259	82.2%	14.3%	99	10			
東成瀬村	4,505	78.8%	37.4%	97	14	○	○	○
計	80,165			1,521	176			

1 地域の概況

横手平鹿圏域の8市町村に雄勝郡の東成瀬村を加えたこの地域の面積は約900km<sup>2</sup>と広く、人口も11万6千人となる。秋田県の東南端に位置し、岩手県及び宮城県と接している。東は奥羽山脈、西は出羽丘陵、中央はこれらに挟まれた横手盆地という構成になっており、奥羽山系に源を発する成瀬川や雄物川、横手川が地域を貫流し、特に中央部は肥沃な水田地帯が形成されている。6町村が過疎地域に、3町村が振興山村地域に指定されているほか、冬は積雪量が多く、5町村が特別豪雪地帯に指定されている。

鉄道はJR奥羽線が横手市（2駅）、平鹿町（1駅）及び十文字町（1駅）を縦走しているほか、北上線が横手市及び山内村（5駅）を通っている。また、国道13号線がこれと併走し、107号線が雄物川町、平鹿町、横手市及び山内村を東西に貫き、十文字町で国道13号線と連結している342号線が増田町及び東成瀬村を通っている。更に、東北横断自動車道（秋田自動車道）、これと横手で接続する横手湯沢道路といった高速道路網（ICは横手及び十文字）が整備されている。

2 住民等の意識

(1) 合併の必要性

【一般住民】

- ・合併不要派が合併検討派を上回っているのは、大雄村のみとなっている。

【行政関係者等】

- ・いずれの市町村においても、合併検討派が合併不要派を大幅に上回っている。

## (2) 市町村間の親近度

### 【一般住民】

- ・横手市と平鹿郡町村との広域合併を望むものが横手市で60%、郡全体で58%となっている。
- ・東成瀬村は雄勝郡に属するが、増田町及び十文字町に対する親近感はいずれも70%となっている。なお、湯沢市と雄勝郡町村の広域合併を望むものが雄勝郡町村全体で56%と高いが、その中において東成瀬村は8%に止まっている。

### 【行政関係者等】

- ・横手市と平鹿郡町村との広域合併を望むものが横手市で50%、郡全体で40%となっている。
- ・東成瀬村の増田町及び十文字町に対する親近度はいずれも50%以上である。なお、湯沢市と雄勝郡町村の広域合併を望むものが、雄勝郡町村全体で50%近いが、その中において東成瀬村は皆無となっている。

## 3 行政の連携

### 【事務の共同処理】

- ・横手市と平鹿郡7町村で広域市町村圏組合を設置している。ただし、同組合の火葬場事務については、平鹿町、雄物川町、大森町及び大雄村は関わっていない。
- ・雄物川町、大森町及び大雄村は火葬場事務等の組合を設置している。
- ・東成瀬村は、他の雄勝郡町村及び湯沢市と広域組合を設置している。
- ・介護保険事務（認定審査会事務）については、横手市と平鹿郡町村が、湯沢市と東成瀬村を含む雄勝郡町村がそれぞれの広域市町村圏組合により対応することになっている。

### 【行政計画等】

- ・ゴミ処理広域化計画も、横手市と平鹿郡町村、湯沢市と東成瀬村を含む雄勝郡町村というそれぞれのブロックになっている。
- ・2次医療圏、老人保健福祉圏等も同様である。

## 4 生活圏

- ・平鹿郡町村の横手市に対する依存度が高い。
- ・東成瀬村は、通学や買い物、通院で、十文字町・増田町への依存度が高い。通院の面では湯沢市に対する依存度も高い。

## 5 行政機関等の管轄等

### 【主な行政機関】

- ・県の出先機関のほとんどが、横手平鹿圏域、湯沢雄勝圏域を単位として管轄しているが（したがって、当該9町村の中では東成瀬村が別管轄となっている。）、「横手警察署」は横手市と平鹿郡の増田町及び十文字町以外の町村を、「増田警察署」が増田町及び十文字町と雄勝郡の稲川町、皆瀬村及び東成瀬村を管轄している。
- ・「秋田法務局横手支局」が横手市と増田町及び十文字町以外の平鹿郡の町村を、同「湯沢支局」が増田町及び十文字町と湯沢市及び雄勝郡の町村を管轄している。
- ・税務署及び職業安定所は、横手平鹿、湯沢雄勝の各圏域単位の管轄となっている。
- ・消防本部も、横手平鹿、湯沢雄勝の各圏域単位の管轄となっている。

#### 【主な公共的団体】

- ・農協は、「秋田ふるさと農協」が横手市と雄物川町を除く平鹿郡町村を、「おものがわ農協」が雄物川町を、「こまち農協」が東成瀬村を含む雄勝郡町村（羽後町の一部除く）と湯沢市を管轄している。
- ・森林組合は、「平鹿広域森林組合」が横手市と平鹿郡町村（雄物川町の大沢地区を除く。）を、「雄勝広域森林組合」が雄物川町の大沢地区、東成瀬村を含む雄勝郡町村（雄勝町の秋の宮地区を除く。）及び湯沢市を管轄している。
- ・青年会議所は、横手市及び平鹿郡町村を「横手青年会議所」が、東成瀬村を他の雄勝郡町村及び湯沢市とともに「湯沢青年会議所」が管轄している。
- ・商工会議所・商工会及び社会福祉協議会は、それぞれ市町村毎に置かれている。

#### 6 歴史的経緯

- ・横手平鹿地域は、昭和の合併がひととおり終了した後市町村間で区域の一部編入が頻繁に行われており（例えば、横手市と山内村、平鹿町と大雄村・雄物川町・十文字町、雄物川町と十文字町など）、更に他の郡等との区域の編入関係も認められる（例えば、横手市と仙南村、大雄村と大曲市、増田町と稲川町、大雄村と羽後町、大森町と大内町など）。
- ・東成瀬村は、昭和32年に新市町村建設促進法に基づき増田町との合併を勧告されているが、これを受諾せず、同村は明治22年の町村制施行以来合併を経験していない。

#### 7 その他

- ・横手青年会議所が、平成7年に「横手平鹿広域合併」を提言している。
- ・日本青年会議所が、平成9年に「横手平鹿市」構想を提言している。
- ・横手市及び大森町は、それぞれ病院を経営している（それぞれ260床、95床）。